

令和 7 年度 第 2 回
駿東田方圏域保健医療協議会
駿東田方構想区域地域医療構想調整会議

日時：令和 7 年 9 月 10 日（水）

方法：書面

【御意見】

報告事項 1 診療所の承継・開業支援に係る支援区域及び支援対象の選定

山下委員（伊豆の国市 市長）

伊豆の国市は、市内に大学病院があることから医師少数スポットに該当しませんが、開業医の高齢化が進む中で、身近な地域における日常的な診療の確保が課題であります。

診療所の承継・開業支援に係る支援区域及び支援対象の選定について、通院の負担軽減や診療所の立地状況を重視した考え方に賛同いたします。

伊藤委員（沼津市立病院 病院長）

支援対象は、可住地面積当たり診療所医師数に加え、将来人口推計も考慮すべきである。また、診療所が立地する区域の住民にとって必要な診療科か否かも選別すべきである。

若林委員（有隣厚生会富士病院 理事長）

支援対象の診療所の評価値は分娩を取り扱う産科は優先的支援として取り扱っていただける文章になっておりますが、切実に支援を嘆願する次第です。

御殿場市、小山町において人口約 10 万人の分娩を 1 診療所で取り扱っており、2024 年度の分娩数は十数年前には 1000 件あった出生数が、御殿場市が 485 件、小山町が 62 件と激減し、その中で共立産婦人科の分娩数は年間 214 件で、内予定帝王切開は 39 件、緊急帝王切開は 14 件で緊急対応も手薄の医師配置の中で奮闘しております。大きな事故のないのは順天堂静岡病院と沼津市立病院のご協力の賜物であり、ギリギリの産科医療を維持しております。

本年 4 月には大学からの医師派遣もなくなり、産科医療を閉めざるを得ないところまで追い込まれましたが、御殿場市の支援もあり、名古屋から新院長を招き、無痛分娩を柱に安全な産科医療ができる体制づくりに邁進しております。今後については、財政支援と医師の確保がない限り、継続は不可能です。

他地域も同様ですが、産科医療は、電気・水道と同じく安心した街づくりには不可欠なインフラであることをご理解頂き、支援を何卒宜しくお願い致します。